

宇和島市 障害福祉計画に係る状況調査
【関係団体・事業所】
結果報告書

平成29年12月
宇和島市

目 次

| | |
|---------------------|----|
| 1 調査の概要..... | 1 |
| 1. 調査の目的..... | 1 |
| 2. 調査概要..... | 1 |
| 3. 報告書の見方..... | 1 |
| 2-1 調査結果（関係団体）..... | 2 |
| 2-2 調査結果（事業所）..... | 10 |

1 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、計画の改定にあたり、地域福祉に関する団体や事業者の状況や要望を把握するため実施しました。

2. 調査概要

- 調査対象者：市内障害者関係団体、市内サービス提供事業所
- 調査期間：平成29年8月25日
- 調査方法：郵送による配付・回収

| 調査票 | 配布数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|-------|-----|-------|-------|
| 関係団体 | 14件 | 8件 | 57.1% |
| 市内事業所 | 39件 | 26件 | 66.6% |

3. 報告書の見方

- 回答結果は、件数で示しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

2-1 調査結果（関係団体）

問1 現在、行っている活動の内容や目的について、ご記入ください。

| 記述内容 |
|--|
| <p>1.日中活動支援事業：専門性の高いインストラクターの指導によるミュージック・ケア、スイミングを各々1回/月実施。障がい児者の余暇活動支援。</p> <p>2.写真をツールにつながる事業</p> <p>①公募のコンテスト、写真展。2011年より7回。…障がいの有無に関わらずつながる。</p> <p>②いのちの写真展。2016年より。障がい児・者が被写体の写真展。3会場。…障がい児・者のありのままの日常を社会に伝える。</p> <p>③ワークショップ…プロ写真家の写真講座。</p> <p>3.地域啓発事業</p> <p>①地域イベントの出店 ②クリーンボランティア（地域の美化・清掃）2回/年</p> |
| <p>未だ理解が少なく偏見や誤った関わりが多い。発達に偏りのある子ども達の育ちを保障していくために必要な活動を行う。最も重点を置くのはその子ども達を育てる保護者を支えることと障害を持っていきることへの社会の理解を広げ、真の意味での共生につながっていくよう、現在ある課題に対してあらゆる方面からの働きかけをしている。</p> <p>内容…学習会、座談会、子育て相談、親子イベント、体験学習、情報提供（ネットワークによる）、支援体制整備、ネットワーク構築。</p> <p>※愛媛県発達障がい者支援協議会委員、愛媛県広域特別支援連携協議会委員</p> |
| <p>えひめ県難聴者連合会に参加。宇和島難聴者協会 15周年 4 記念誌の発行。宇和島難聴者協会のPR、普及活動。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回のスライドや動画を使った勉強会。 ・年に2回の研修慰安会（工場見学等）。 ・年に1回の忘年会。 ・市が実施するイベント等への参加。 |
| <p>2ヶ月毎の例会で問題点を討議したり、相談や励ましをして会員相互の連帯感を強めております。また、年1度の家族会の全国大会や四国ブロック大会への参加で種々の勉強を重ねております。</p> |
| <p>①施設の管理（防災管理等を含む）②経理（消耗品等の購入から講師料の支払いすべてをし）市への収支報告を毎月行っている③自主事業の運営：（毎週）講座、音声訳講座、点字講座、朗読講座④ボランティア学習の会場提供・援助：手話サークル（毎週）、音声訳グループ（月1回）、点訳グループ（月1回）⑤広報テープ録音作業手助け、回収と点字⑥録音図書、発送返却（貸し出し）管理と点字⑦定期利用団体（子育て支援・認知予防学習・認知症家族の会・精神障害団体家族会などへの会場提供と援助）⑧障害者団体及び障害者本人の利用の会場提供と援助⑨ボランティア団体の会場利用⑩国・県・その他よりの点字物CDテープの管理・告知。</p> |

問2 貴団体が活動している中で、どのような障害者に関する問題や課題がありますか。

| 記述内容 |
|---|
| 障がい種別や所属のつながりや団体はあるけれど、横のつながりが弱いように感じる。障がい児・者が子ども～成人期と支援機関が変わっていくが所属しているところ以外での地域とのつながりが持ちにくい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・問題や課題は個人的なものだと捉えられていること。または各部署内で解決させようとしていること。 ・障害者への支援に関して、法律や制度は改正され国全体での取り組みに進んでいっているはずなのに、宇和島やその周辺ではその変化を感じにくく当事者の困り感は山積したままになっている。 ・障害にもいろいろあるが、その違いに関心が薄く支援の捉え方に偏りがあること、また、そのことを問題視していないこと。 ・相談や情報も含め生活する中でよりどころや受け皿が少なすぎる。 |
| 難聴者の存在の把握が難しい。他の障害者や他の難聴・聴覚・人工内耳間の連携も難しい。えひめ難聴者連合会がそのためのきっかけづくりとなれば良いと思っている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難等。 ・社会参加や地域行事等への参加問題等。 |
| 1番の問題点は家族会の会員が減少していることです。減少した原因は家族会の高齢化によるものです。 |
| 自主事業の講座（音声訳・点字・朗読）の参加者の減少と各講座講師の高齢化。 |

問3 貴団体が活動される中で、障害者やその家族から日常の困りごとや問題等に関する相談を受けたことがある場合、その内容はどのようなものでしたか。（あてはまるものすべてに○）

| 選択肢 | 件数 |
|---|----|
| 就労や復職について | 7件 |
| 障害者サービスや制度全般 | 6件 |
| 教育等について | 3件 |
| 人間関係 | 3件 |
| その他 （内訳）・年金受給について ・支援体制、生活、子育て、将来について、障害特性、具体的支援、二次障害、支援者はじめ発達障がいへの理解が乏しいこと、等。 ・聴力検査について | 3件 |
| 就学や進路について | 2件 |

※他の選択肢には回答なし

問4 貴団体が活動される中で、地域における障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるがありますか。(1つに○)

| 選択肢 | 件数 |
|-----|----|
| ある | 7件 |
| ない | 1件 |

【問4で「1. ある」と答えた方にお聞きします】

問4-1 どのようなところに、もっとも強く障害者に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じますか。(主なもの2つまで○)

| 選択肢 | 件数 |
|-----------------------------|----|
| 店等での対応・態度 | 3件 |
| 障害者の周囲の人の対応・態度 | 3件 |
| 人間関係 | 2件 |
| 街中等での周囲の視線 | 2件 |
| その他(内訳:知らないことによる気持ちの距離感、市政) | 2件 |
| 雇用や賃金 | 1件 |
| 教育の場 | 1件 |

※他の選択肢には回答なし

問4-2 問4-1でお答えいただいた障害者に対する差別・偏見などを感じるところについて、具体的な例をご記入ください。

| 記述内容 |
|---|
| 相模原の事件をきっかけにいのちの写真展を開催した。障がい者は頑張っている～と感動の対象だったり、遠慮されたりという気持ちや目線の距離感がある。社会の人と同じように家族や利用施設を職員やまわりの人と一緒にありふれた日常を送っていることを知ってほしいと思います。知らないから遠く差別や誤解につながる。 |
| 筆談を依頼しても応じてもらえないことも多い市役所の中でも上の方の方は応じないことが多く出てこないことが多い。 補聴器店で器種の選び方にあたり保険対応と自費購入により、器種や価格によって違いが大きく、よい補聴器が選びにくい。差別が大きすぎる。 |
| 1.会社での朝礼時の内容が伝わっていない。 2.仕事場では説明の場があるが通訳依頼をしても断られた。 3.職場のスタッフが通訳するが十分に伝わらないので通訳しない。 4.仕事場内で聴覚障害者がいる、その中にあなただけ通訳依頼が多すぎる。おかしいと言われた。 5.仕事を病気で休んだ後の給料日、受け取った給料が少ない。休んだ日数より多く引かれていた。会社に不満があっても相手にしてくれない、など。 |
| ・大丈夫。お手伝いしましょうか、等の言葉が自然に出る世の中に！（無関心すぎる） ・障害者と一見できる人へ、印鑑の押し直しを強要する銀行員（自分が押してやれ）。 |
| 知的障害者に関しては見た目の様子は普通であるが態度やしぐさが周りの人と違うため奇異な目で見られる。 |

問5 障害者を取り巻く現状や身近で感じている課題、宇和島市に希望すること等について、自由にお書きください。

| |
|---|
| ①障害児・者に対する福祉サービスについて |
| グループホームは不足しています。児について所属が変わるとき十分な情報共有がされることが必要。 |
| 抜本改革、現状把握（→現時点で行っている支援自体の課題をどうとらえているか？当事者のニーズをどこまで把握しどうとらえているか）、支援体制、人事配置の見直し、人材育成、支援のネットワーク構築。 |
| 障害者の様々の相談窓口のようなものがほしい。行政ではなく行政にも意見の言える立場の人が望ましい。 広域派遣制度の拡充→県外派遣について。 補聴器の助成が人口内耳に比較して大変少ない。 日中一時支援の際の送迎。 |

| |
|---|
| ②地域包括ケアによる地域の連携強化について |
| 支援者や関係機関のつながりをもたない軽度な方や発達・精神・高次脳機能障がいなどが誰にどこに相談するか、支援機関のネットワークで関わる必要がある。 |
| 医療機関の連携、災害時の支援、発達障がいについての理解を促す取り組み。 |
| 必要なものも多いが弁当にかこつけて見守りという名のもとに無断でずかずか家の中に入ってくるのは困る。 |
| 親なき後、障害者が1人で生活していくことのできない中・重度の方のグループホームや入所施設が足りない。緊急時のショートステイについてもショートステイができる施設が圧倒的に足りず、利用したくても利用できない現状がある。今ある市内の通所の施設にぜひショートステイができるよう希望する。 |

| |
|---|
| ③障害者の社会参加について |
| 発達障がいを正しく理解していただくこと、ジョブコーチ、職場リハビリテーションの導入—適切な支援環境を整備するための支援（人も職場環境に対しても）。 |
| 物を販売したりする場合に少量であっても正規の派遣は受けられない。その代わりとなる民間有償ボランティアのようなものが必要と思う。 |
| 障害者就労支援団体や施設と障害者の就労希望をする会社との連携。 |

| |
|--|
| ④障害や障害者に対する差別解消や理解促進について |
| 宇和島市が本気で取り組む気があるのか、新市政への期待は大。 |
| 一言では難しいが相談にのってくれる窓口は必要と思う。いろいろな意見が行政にあがっていくシステムがもっと必要と思う。 障害者の把握と交流・協力関係の構築が必要。 |

問6 貴団体で、現在の活動や対応を充実する上で課題と考えることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

| 選択肢 | 件数 |
|---|----|
| 新規メンバーの加入が少ない | 4件 |
| 資金が不足している | 4件 |
| 活動がマンネリ化している | 3件 |
| 他の団体と交流する機会が乏しい | 3件 |
| 活動メンバーの専門性が不足している | 2件 |
| 特に困ったことはない | 2件 |
| メンバーに世代等の偏りがある | 1件 |
| 役員のなり手がいない | 1件 |
| 会議や活動の場所の確保に苦勞する | 1件 |
| 活動に必要な情報の収集が難しい | 1件 |
| その他（内訳：ニーズ（当事者の困り感）は多岐にわたる。また満載にも関わらず適切な支援を受けにくいまたは受けられていない人が多い。） | 1件 |

※「情報発信する場や機会が乏しい」：回答なし

**問7 貴団体が活動する中で、連携・協力している機関や団体などはありますか。
(あてはまるものすべてに○)**

| 選択肢 | 件数 |
|-------------|----|
| NPOやボランティア等 | 4件 |
| ご近所や地域組織等 | 3件 |
| その他 | 3件 |
| 専門機関や事業者等 | 2件 |
| 特になし | 1件 |

問8 問7でお答えいただいた機関や団体等と、連携・協力している内容について、具体的にご記入ください。

| 記述内容 |
|---|
| フォトコンテストへの出品協力や写真展を依頼される。ワークショップの会場提供協力いただく。高校…文化祭での出店や写真展など。 |
| 情報交換、情報収集、相談、イベント協力、各種研修等、支援の連携（適切な機関、人へのつなぎ） |
| 要約筆記サークルオリーブうわじま、松山、手話サークルはまゆう・・・情報支援 南予視覚障害者協会、精神ボランティア吉田町…活動協力、セミナー、イベント等。 |
| 家族会の会員がNPO法人の理事を務めており互いの連携強化をはかっている。 |
| 1.夜間や休館日などは無人になるため、火災やその他緊急連絡が必要な際の対応を近隣住民の方々にお願いしている。 2.障害者本人や障害者団体を最優先しているため、会場利用が重なった場合はボランティア団体に理解を得ている。 |

問9 市の障害者に関する施策についてご意見やご提案があればご記入ください。

| 記述内容 |
|---|
| <p>（団体の立場から）充実した活動をすればするほど、資金づくりが悩ましい。あるいはこの活動を障がい者福祉の向上のために活用してもらえたらなあと団体の立場では思います。</p> |
| <p>（全般的に）障がい児・者と家族が宇和島市で安定して暮らすために、世代や立場・障がい種別・特性・居住・立場、それぞれをつなぐ機能やシステム・人があればと考えます。</p> |
| <p>30年以上前に比べると社会資源は増えてきました。整ったと言いきにくいのはそれらと人をつなぐ機能が弱いと感じるため。医療・福祉・教育・労働のコーディネート・相談する専門職はいるが、地域で暮らすことは誰が見守る・関わるのか、保健師さん、民生委員、社協地域生活についてネットワークで連携して支援する機関・人が必要です。</p> |
| <p>現状と周辺の動きにも目を向けそろそろ前に向かって進んでください。担当者や現場の支援者が動きやすい、連携をとりやすい支援体制整備をお願いします。当事者抜きの施策を紙面上だけでつくることのないよう具体的な変革につなげてください。</p> |
| <p>行政の直接の窓口ではなかなか意見や提言は反映されにくい。もっと上層部との意見や提案に対する交流がみえるようにして、直接対話する機会等を設けて市役所全体の問題として討議する場を公開すべきと思う。</p> |
| <p>手話言語法条例の目的に基づき広く市民が手話に触れ、手話に親しみ手話への理解を深めることを目的としてイベントを開きたい。</p> |
| <p>施策については市（行政）対障害者（個）の関係だが、障害者団体は（個）の集まりであります。その団体を維持することができなくなっています。団体への配分金や補助金が削除や廃止されこれまでのような活動ができません。現状だと解散以外ない。これが市の施策でしょうか？大いに疑問です。</p> |

2-2 調査結果（事業所）

問1 現在のサービス提供の状況についてお聞きします。

| ①平成29年8月現在、貴事業所において提供しているサービス | 件数 |
|-------------------------------|-----|
| 居宅介護 | 13件 |
| 重度訪問介護 | 9件 |
| 生活介護 | 7件 |
| 就労継続支援（B型） | 6件 |
| 相談支援事業 | 4件 |
| 計画相談支援（サービス利用計画作成） | 3件 |
| 地域活動支援センター事業 | 3件 |
| 就労継続支援（A型） | 2件 |
| 短期入所 | 2件 |
| 共同生活援助（グループホーム） | 2件 |
| 地域移行支援 | 2件 |
| 地域定着支援 | 2件 |
| 就労移行支援 | 1件 |
| 施設入所支援 | 1件 |
| 児童発達支援 | 1件 |
| 放課後等デイサービス | 1件 |
| 移動支援事業 | 1件 |
| 日中一時支援事業 | 1件 |
| 訪問入浴サービス事業 | 1件 |

※他の選択肢には回答なし

| ②今後（平成30年4月以降）新たに実施を予定しているサービス | 件数 |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> 就労継続支援（B型） （サービス提供開始時期：平成30年4月予定／予定定員数：18人） | 1件 |
| <ul style="list-style-type: none"> 生活介護 （サービス提供開始時期：平成30年4月予定／予定定員数：-） | 1件 |
| <ul style="list-style-type: none"> 共生型サービス （サービス提供開始時期：-／予定定員数：-） | 1件 |

| ③円滑な事業運営を進めていく上で、問題を感じることはありますか。 | 件数 |
|----------------------------------|-----|
| 職員の確保が難しい | 20件 |
| 事務作業量が多い | 10件 |
| 利用者の確保が難しい | 8件 |
| 老朽化への対応やバリアフリー化など施設・設備の改善が難しい | 6件 |
| 職員の資質向上を図ることが難しい | 6件 |
| 労働条件の改善が難しい | 5件 |
| 利用者や家族のサービス利用に対する理解が進んでいない | 3件 |
| 特に問題を感じることはない | 1件 |
| 障害者関連の制度改正等、必要な情報の入手に支障がある | 1件 |
| 市等行政と連携をとることが難しい | 1件 |
| その他（内訳：利用者の高齢化、重度化） | 1件 |

| ④市全体をみたときに、不足していると思われるサービスや支援はどのようなものでしょうか。また、それらのサービスや支援が足りていない原因は何だと思われますか。 | |
|---|---|
| 不足しているサービス | 原因 |
| 居住関係、同行援護 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 居住-精神障害の方の入居困難、支援者不足 ・ 視覚障害の方の緊急時、同行援護利用の困難さ |
| 共同生活援助 | 待機者が多数おり、今後もGH建設する話を耳にしない。 |
| 重度の障がいがある児童が成長していく過程での受入れ先や送迎など。また、全体的に事業所が不足している。 | 高校卒業までは受入れ先があるが、その先を不安がる利用者家族の話を多く聴く。 |
| 障がい児のための相談支援事業所 | 利用児の現状把握ができていないように思います。 |
| 職員の人数（全体的に） | 拘束時間の長さ、職員1人当たりの負担が大きい、給料の安さ、腰痛の慢性化。 |
| 養護学校卒業後の就労 | 受け入れてもらえる社会資源がない。 |
| GH | 運営の維持？新たに土地や建設費等にかかる費用・財源の余裕がない。また、GHをつくったとしても職員確保が難しいのではないかと感じる。当法人内で今後必要なほしいサービスは何か通所者（家族）にアンケートをとったが、今後10年の間にはGHをつくりたいと思っはいる。 |
| サービス利用にあたっての説明 | サービス利用にあたっての説明（できること・できないこと）。何でもヘルパーができると思われている。事業所から説明しても聞いて頂けることはほぼなく、クレームとなることもある。1人で訪問するヘルパーを守ってもらえるような対応についても今後考えて頂きたい。それぞれに想いもあり、人材不足もありで間を上手に取り持って頂ける方がいてほしいと思います。 |
| 地域活動支援センター | 高齢化が進み精神障がい有する方々の行き場が少ないように感じる。 |
| グループホーム | - |
| グループホーム等の入所型事業 | 事業者側としても人件費や人の確保・事業に使用する建物の準備など、様々な問題があつて着手できないのだと思う。 |
| 市民の理解 | 支援は行政任せで市民間での交流不足。 |
| グループホーム | 事業所において、利用者の話を聞いていると近くにグループホームがあればの声を聞きます。 |

| ⑤利用者や家族からあげられる苦情・相談はどのようなものが多いですか。 | 件数 |
|------------------------------------|-----|
| 特に苦情や相談はない | 14件 |
| サービス内容に関するもの | 7件 |
| 利用手続きに関するもの | 3件 |
| 職員の態度に関するもの | 2件 |
| 施設・設備に関するもの | 1件 |
| その他（内訳：支援の質に対しての不満） | 1件 |

※他の選択肢には回答なし

問2 この3年間（平成27年度～平成29年7月現在まで）に、宇和島市の利用者で一般就労した人数等を教えてください。

| 宇和島市の利用者で一般就労した人数（人） | | | | |
|----------------------|----|--------|--------|-------------|
| 障害種別 | 合計 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年（4～7月） |
| 身体 | 18 | 4 | 7 | 7 |
| 知的 | 17 | 4 | 5 | 8 |
| 精神 | 44 | 15 | 16 | 13 |

| 一般就労した人数（上記合計人数）のうち離職した人数（人） | | | | | |
|------------------------------|----|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 障害種別 | 合計 | うち0～3か月で離職した人数 | うち4～6か月で離職した人数 | それ以上在籍して離職した人数 | 在籍期間不明で離職した人数 |
| 身体 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 知的 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 精神 | 3 | 0 | 2 | 1 | 0 |

問3 貴事業所及び病院に入所・入院されている、宇和島市の利用者のうち、これまでに地域生活へ移行した方の人数、地域生活への移行が見込める方的人数をご記入下さい。

| 入所・入院されている方で地域移行した人数（見込み含む）（人） | | | |
|--------------------------------|--------|--------|--------|
| 合計 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 13 | 3 | 8 | (2) |

| 移行形態（人） | | | | | |
|---------|-------|-------|---------|------|-------|
| 合計 | 自宅 | | グループホーム | その他 | |
| | 家族と同居 | 一人暮らし | | 公営住宅 | アパート等 |
| 11 | 4 | 0 | 2(1) | 0 | 5(1) |

問4 障害者を取り巻く現状や身近で感じている課題、宇和島市に希望すること等について、自由にお書きください。すべてにご記入いただく必要はありません。特に気になるところについてお書きください。

| |
|--|
| ①障害児・者に対する福祉サービスについて |
| 教育関係機関、保健、医療、福祉、地域等で常に連携し、当事者や関係者の顔の見える関係を築き、障害があってもなくても差別されることのない明るい地域社会の構築を望む。 |
| 障がい者の生活をトータルとして援助できるシステムが必要。現在はサービス間の隙間があるため、手続き等煩雑になっている。そのためには、障がい者への福祉サービス提供に習熟したヘルパー人材の育成が必要。 |
| 障がい児に関する相談支援事業所がとても少なく、ほぼ1ヶ所に集中している状況です。そのため現状把握ができていないと思われます。相談支援事業所が中心となって各事業所との連携をとりつつ、利用児の将来に向けての支援体制を考えていってほしいと思います。 |
| 就労において離職した場合のフォロー及び地域での孤立を防ぐためには、福祉サービスにつなぎながら再度の就労支援が必要である。 |
| 幼児期からの支援（療育）の大切さ。グレーゾーンの方の支援の必要性。相談等も含め。 |
| 生活介護における1ヶ月の支給量の上限が設定されているため、それを超えてサービスを提供しても報酬が支給されない。 |
| 地域の中で生活し、充実した「今」を送りたいと思っている方はたくさんいるが、旧市内には知的障害を対象としたグループホームがない。 |
| 根本的には人手不足。支援者のプロ意識不足。 |
| ②地域包括ケアによる地域の連携強化について |
| GHや共同住宅等が少なく地域移行ができていく。「親なき後問題」…本人も家族も高齢化し、介護保険との兼ね合いも必要では？ |
| 親なき後、また保護者の高齢化に伴い、地域活動支援センターを利用している当事者は、通所への移動や日常生活の支援者に欠け、衣食住に係る身の回りの世話や、医療機関の受診介助など福祉サービスの提供を求める方が多くなる。今後の単身化する障害者をどのようにサポートしていくか地域全体の課題として地域包括ケアシステムを構築し、当事者自身も地域で何ができるか役割を見出したり、支援を受けるサービス内容を徐々に明確にしていく必要があると思われる。 |
| 障がい者へのサービス提供に関して、地域包括ケアによってどのように連携して取り組めるかがわかりにくいので、具体的な連携例等を示してほしい。 |
| 重度心身障害（児）者において、身体介護の24時間体制の確保が必要であり、医療との連携や緊急時の支援を強化することが必要である。 |
| 当法人でも家族の高齢化により、在宅での生活を不安に感じているご利用者も増えている。どの家族も施設入所ではなくGHや持ち家のある方はヘルパー利用などでの地域での生活を望まれている。他機関との連携や何かあったとき（24時間体制）の対応がとれるようなものが充実していれば安心なのかもしれない。 |
| 地域で団結せざるを得ない状況にならないと難しいと思われる。 |
| 一般企業等の希望する人材の情報を取り扱う機関があればと考えます。 |

③障害者の社会参加について

企業・事業所等の障がいに対する理解と配慮が必要。支援者が少ないため、自分の主張（あーしてほしい、こーしてほしい）等が発信できない等。働く環境が障がい者にやさしくない。

障害者が働ける企業や事業所が地域のどこにあり、障害者自身が適応可能な作業内容かなど、選択できるための事業所見学会の開催企画や、また企業にジョブトレーナーや精神保健福祉士等の専門職の配備を行い、障害者雇用の環境整備が必要と考える。

閉じこもりをなくし、障害者が外に出て行ける環境をつくる。特に移動方法の確保。また、就労した際に安定した賃金を保証することも必要。

ハローワークに障害者雇用の募集をかけているが、応募がないため障害者にとって働くことへの不安や働けると思える仕事の条件やニーズを知りたい。

就労が障害者の自立のひとつとして、希望する障害者の人たちに対してもっと就労支援を雇用政策として強化してほしい。

障害者雇用できる企業が増えればと思うが、そのためには企業側も障害者に対する特性などを理解する必要がある。和霊公園駐在所裏男子トイレをするときに見えるのがいやという声を利用者かがあったので整備してほしい。

もっとたくさんの仕事を準備すればどうか？自宅のできる仕事やスキルアップできる仕組み。そう簡単ではないことは理解しています。

A型事業所を増やしてもらいたい。

商売の多くは出来高での賃金ということを理解するべき。それが難しいのだったら職人を目指すしかないと思われる。

感情の波が少ないこと・体力をつけること・身勝手な解釈をしないことを指導していく。企業との事前打合せ等。

④障害や障害者に対する差別解消や理解促進について

地域住民の理解を受入れ、住宅事情、アパートの受入れがスムーズにいければ（特に精神）。

地域交流事業等で障害者自身も積極的に地域に出向き、地域の人たちとつながり、顔見知りとなり、存在を知ってもらうこと、また具体的な声掛けや話し合える関係の人を多く持つ努力をし、地域や社会生活の改善を図っていくことが大切と思われる。

まだまだ障がい者への偏見が強く、将来的にGHなどの事業を立ち上げるときの懸念材料となっている。そのため、障がい者に対する理解を深めるための活動を行ってほしい。

地域行事への参加を通して地域住民と交流を持ち、障がい者に対する住民の理解を促す。

障害者差別解消法はできたが、地域に浸透しておらず法律すら知らない人が多く、偏見の目や差別が解消されていないため、宇和島市広報に障害者差別解消法について掲載するなどの措置が必要である。

地域の方へももっとこれらの法律のことを知ってもらいたい。知らない人、わからない人が多い。従事者（職員）・家族に対しても研修などしたらどうか？（当事業所内でも年1回以上は施設内研修は行っているが…）

一般への理解を深めさせたいなら学校教育を巻き込む必要があると思う。社会人になってからでは、時間も興味もないと思われる。

問5 貴事業所では、サービスの質の向上のために、現在どのような取り組みを行っていますか。あてはまるものにすべて○をしてください。

| 選択肢 | 件数 |
|------------------------------------|-----|
| 苦情解決の対応マニュアルを作成している | 22件 |
| 災害時の対応マニュアルを作成している | 21件 |
| 事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている | 19件 |
| 各事業所の管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している | 17件 |
| 個人情報保護に関するマニュアルを作成している | 16件 |
| 権利擁護や虐待防止に係る委員会等の開催やマニュアルを作成している | 12件 |
| 現場スタッフが自発的に問題事例等に関するケース検討会等を開催している | 8件 |
| サービス提供のガイドラインを作成している | 6件 |
| 利用者や家族に対し満足度調査を行っている | 1件 |
| 積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価等） | 1件 |
| その他（内訳：職員研修、QC活動） | 1件 |

※「特に行っていない」：回答なし

計画策定にあたりご意見がございましたら、自由にご記入ください。

| 記述内容 |
|---|
| 資源の少ない中で地域住民全体の支援や協力が不可欠だと思いますが、一番難しいところだと思います。それに対してどうすれば良いかという考えは思いつきませんが、資源が限られている「地方」では必要なことかなと思います。 |
| 職員は介護福祉士及びヘルパー2級の資格で支援に入っていますが、その利用者さんの持つ障害に対しての知識不足のため、不安を持って対応しています。社内研修では浅い知識程度しか指導できず、勉強できる場があるのであれば、知りたいと思います。行動援護等、一部研修の案内がたまにくる程度です。（参加基準が狭められていて参加できない）定期的に様々な障害に対する研修会（誰でも参加できる）があればいいと思います。 |
| 障がい者が自立できるように収入面等を増えるような計画をしてほしい。 |
| 障害者における特定相談支援事業を設立することによってニーズをくみ取り、ノーマライゼーションの実現に向けて側面的に支援していきたい。 |
| 介護保険と同様の自立支援に向けた取り組みが必要と思われます。 いつもお世話になっております。人材不足もあり高齢化も進んでおりますが、できる限りのご協力をさせていただきます。今後ともよろしく願いいたします。 |